

十勝の土壌と農業

Part 1-2 (参考ファイル)

筒木 潔

帯広畜産大学名誉教授

土壌学

<https://tsutsuki.net>

東西の古地図に見る 日本・北海道・千島

根室総合文化会館にて

2013. 4.16-17

アブラハム・オルテリウス アントワープ・ベルギー (1570)



アブラハム・オルテリウス
東インドおよび隣接諸島図

アントワープ 1570年 銅版 手彩色

ベルギーの地図刊行者オルテリウスの地図帳『地球の舞台』
に収められた日本、中国、および東南アジアの地図。日本
の北方には千島諸島ではなく、小さなミヤコ諸島が並んで
いる。

ヤン・ヤンソニウス オランダ(1658)



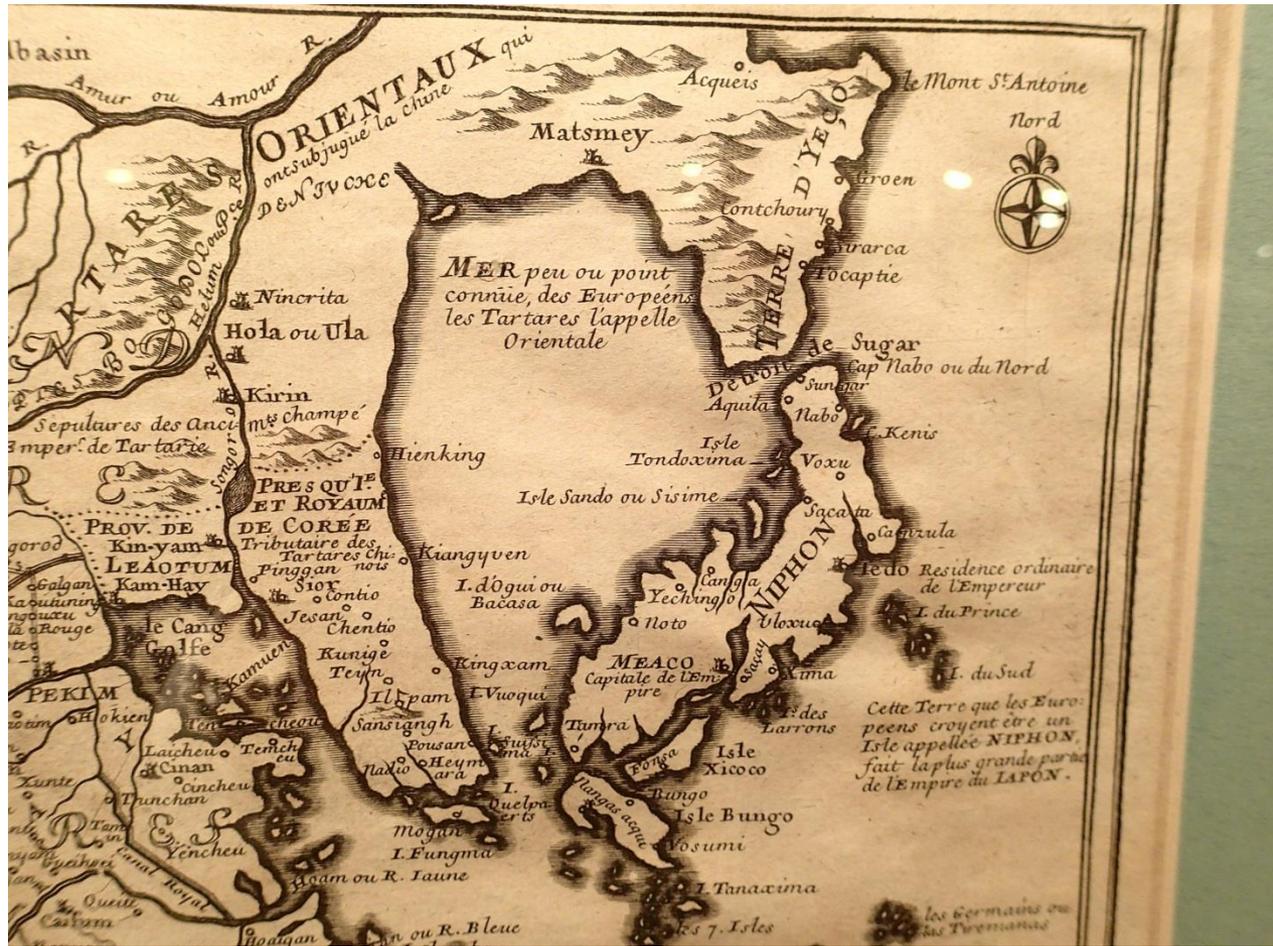
ヤン・ヤンソニウス

日本・エゾおよび周辺諸島図

アムステルダム 1658年 銅版 手彩色（「新地図帳」より）

オランダの航海者フリースの1643年のエゾ地周辺航海の成果を十分に利用したもっとも初期の地図の一つである。オルテリウス／テイセイラ型の日本図の北方にフリースのエゾ地図を追加しているが、津軽海峡が著しく広いのは、北海道南部と東北地方北部が欠けているためである。

ニコラス・ド・フェール パリ(1705)



ニコラス・ド・フェール

シナ大帝国と日本帝国を含むアジア東部図

パリ 1705年 銅版

日本の形は1700年に刊行した「アジア図」と比べると著しく改善されているが、前者において小島であった「エゾ地」は津軽海峡の北方に大陸からのびる半島として描かれている。

近藤重蔵 蝦夷地図式(1802)



近藤重蔵

「蝦夷地図式」 乾

(98×73cm)

享和2年(1802) 写図 彩色

近藤の「蝦夷地絵図」と高橋・中村「カラフト見分図」を合体し、これに詳細な南千島地図を加えた総合図。沿岸にはびっしりとアイヌ語地名が記入されている。

高橋景保(新訂万国全図1810)



高橋景保

新訂万国全図

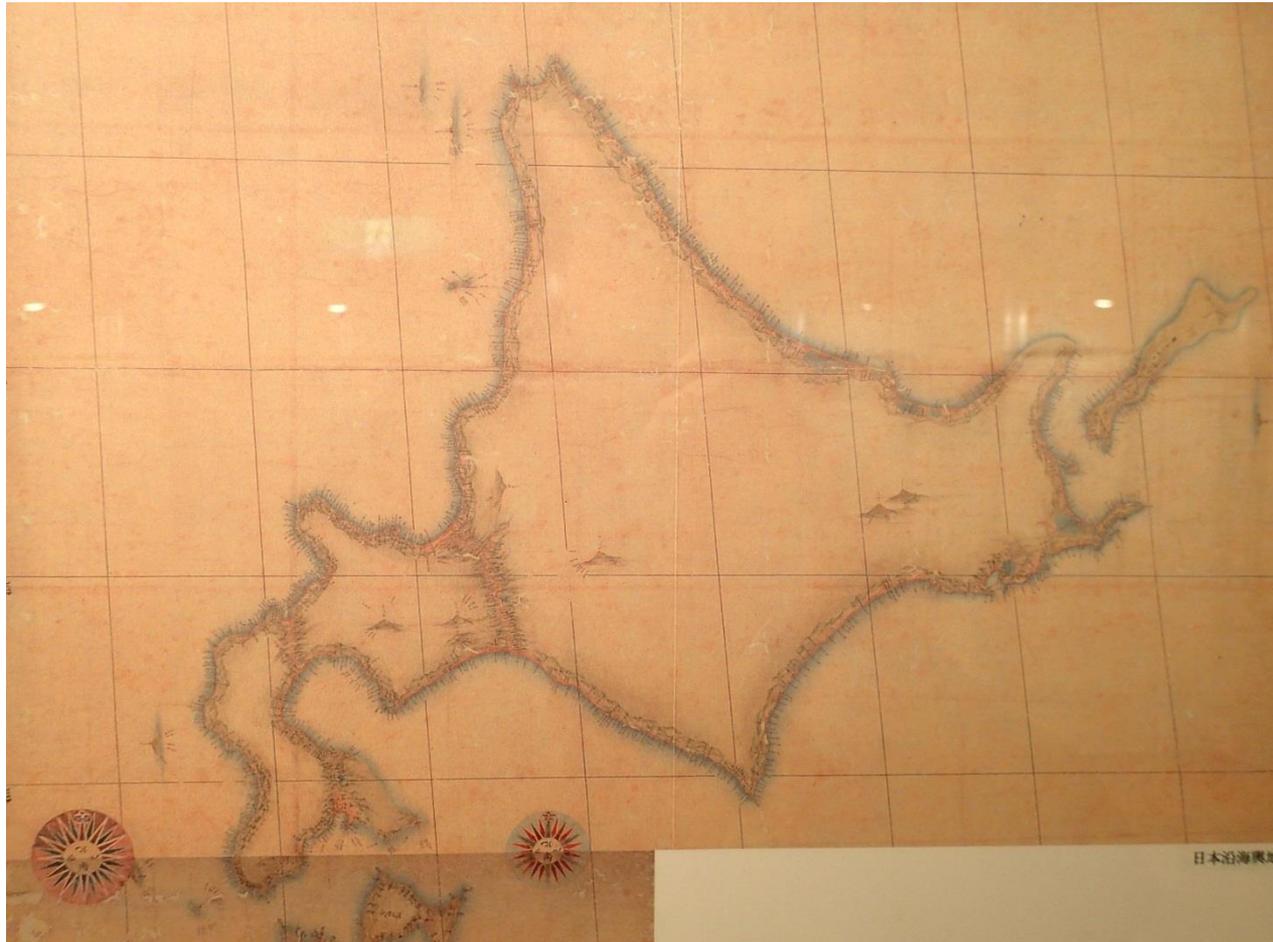
(115×137cm)

文化7年(1810) 銅版 彩色

幕府の天文方高橋景保が幕府に提出した地球両半球図で、
外国地図における日本北辺の混乱を正した当時最良の地図
であった。



伊能忠敬 大日本沿海與地全圖 (1821)



伊能忠敬

大日本沿海輿地全図

文政4年(1821) 手書 彩色

伊能忠敬が17年をかけて10次の測量によって完成した日本全国沿岸の測量図。北海道の地図は伊能忠敬の南岸測量を引継いで完成した間宮林蔵の『蝦夷地沿海実測図』が採用されている。



シーボルトらによる日本図(1850)



クルーゼンシュテルン、シーボルト
などにもとづいた日本、満州、千島列島の地図

ロンドンおよびダブリン 1850年代(?) 石版(?) カラー印刷

日本列島および北海道の輪郭は J・ウォーカーの {日本およびエゾ地図} (ロンドン1835年) によく似ており、片隅に「長崎港図」のあることも同様である。サハリン島、千島列島、沿海州などはクルーゼンシュテルンの地図によっている。イギリス海軍が日本沿海の測量を始める直前の地図だと思われる。

松浦武四郎 千島一覽(1870)



同図 十勝付近



松浦武四郎

千 島 一 覧

(42×53cm)

明治3年(1870) 木版 色刷

北海道、カラフト、千島の鳥瞰図

47

納紗布日誌

松浦武四郎著
丸山道子訳



4525
根拠・書式

納沙布日誌(花咲付近)

四月二十三日

番屋の廢屋のそばから上る。上は野原で平地、そしてホントウ(小沼)に下る。(この道は東西に通っている)ホクシヨ(小湾)に出る。この名は「白と黒のはん点のあるあざらし」(①ごまふあざらし?)が多く集まるところ」の意味である。それからホロノツ(大岬)の上を過ぎて、シユムウシ(番屋、かやくら)②大字昆布盛村字瀬(駄牛)というところを下る。ここは雑魚から大量の油をさく油したところだったためにこの名が残っているのだろうか。ホンノウツ(大岬)を上り下りすると、コンブウシムイ(番屋、板くら、ちがくら)③根室市大字昆布盛)に出た。この湾で大量の昆布がとれるのでこの名がある。ヲタノシケ(小川)というところに出たが、これは「砂の中ほど」という意味である。ここを過ぎると、間もなく下りで、坂の下には道標の柱があった。(アツケシより二十一里二十六間、浜道およそ三十里三町とあった)

ここがチヨブシ(④根室市大字昆布盛字長節)である。ここから山の方には沼があるが、むかしその沼の中に一本の石が飛んで来て、立石になったという伝説がある。それにちなんだ名であるが、ここを境に、この先はネモロ領分になる。浜は東南むき。

岬を越えて砂浜に出た。ツツカエベツ(小川)には、「物を背負った」という故事があるところ。(⑤どんな故事があったのか不明)ヲホサツナイ(小川)「昔神の脚布が流れて来た」との伝説がある。(⑥このいい伝えも川の名からだけではわからない)これから山手の方に、チエトイ(⑦食用になる珪藻土)があるそうで、そのまた上の方は針葉樹の林である。(今日の行程は五里半、この地点からネモロ会所へ二里)

むかしたれ 名づけ始めけん 荒磯に やすれば浪の 花さきの浦

ハナサキ(番屋、板くら、⑧根室市字花咲港) この名は和語の「鼻崎」であろう。南に面して、東の方に岩の岬、西側にはチヨフシ(⑨前出)の岬にはさまれた湾で、この沖あいには二

納沙布岬



北方四島記念碑



根室市歴史と自然の資料館(花咲)



車石（花咲海岸）

アルカリ分に富む玄武岩質岩石中にみごとな放射状節理の発達した球状岩体



花咲灯台



根室市光洋町南部沼の津波堆積物



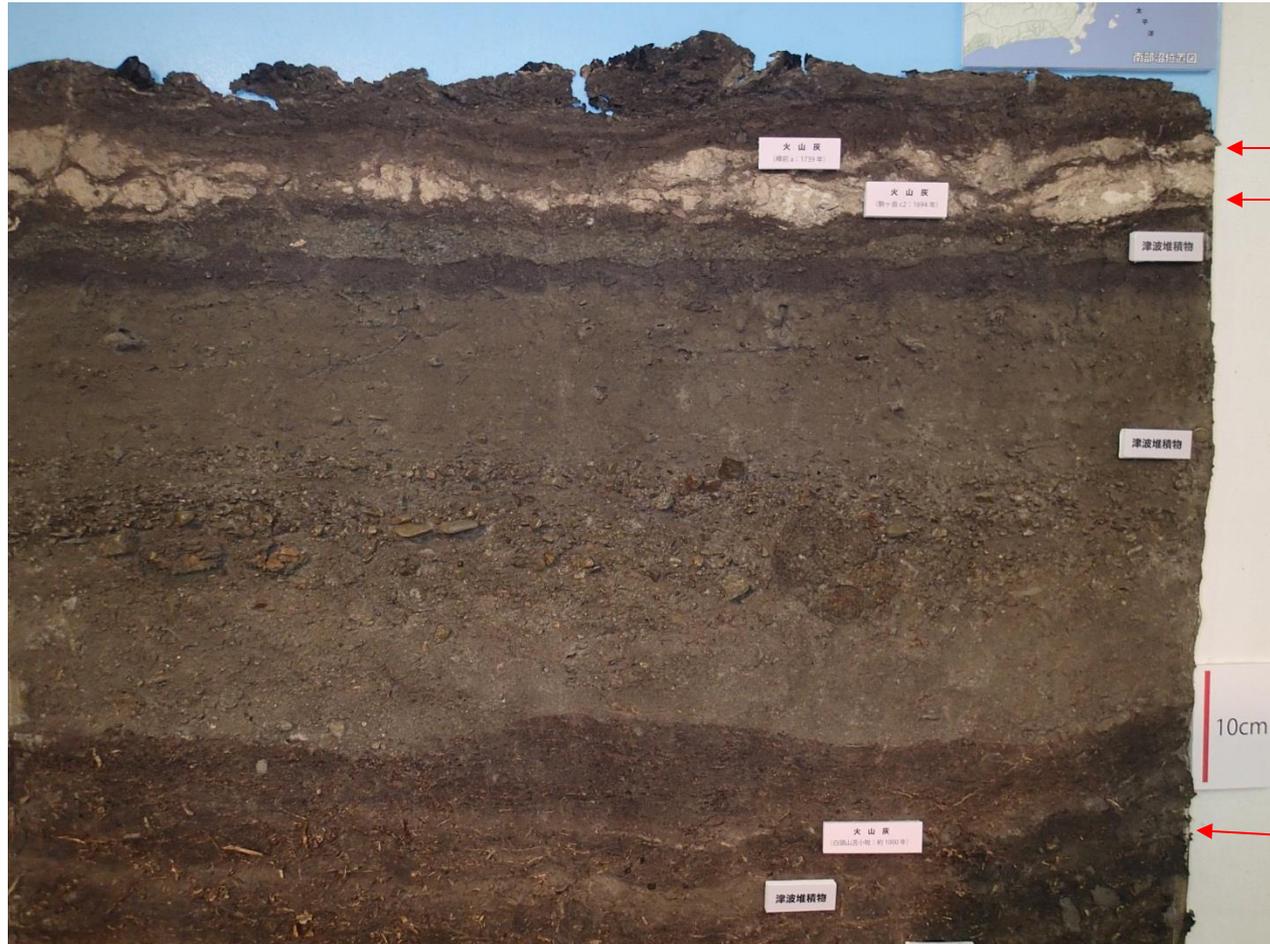
樽前a火山灰 1739年
駒ヶ岳c₂火山灰 1694年

白頭山苦小牧火山灰 10世紀

樽前c火山灰 2.5-3千年前

摩周f火山灰 8千年前

1739年の樽前a火山灰と10世紀の白頭山苦小牧火山灰に 厚い津波堆積物が挟まれている



樽前a火山灰 1739年

駒ヶ岳c₂火山灰 1694年

白頭山苦小牧火山灰 10世紀

津波堆積物と「はぎ取り」資料について

「津波堆積物」とは海砂が津波によって運ばれ、海岸線から内陸に入った地点に堆積したものです。

この地層の「はぎ取り」資料は、海岸線から約1kmほど内陸に入った南部沼（根室市光洋町）の横の湿地の地層をはぎ取ったものです。重機で深さ1mほどの溝を掘り、溝の壁にあらわれた地層に布を当て、樹脂を塗り「はぎ取り」を作ります。

黒い色の地層は「泥炭層」で湿地の通常の堆積土ですが、黒い泥炭層と泥炭層の間に灰色の砂層が入っています。この砂層には、海にいる珪藻が含まれていることから、海砂であることがわかります。海のない内陸に海砂が広範囲に広がっているため、津波が大量の海砂を運んだと考えられます。これが津波堆積物です。

また、この「はぎ取り」には火山灰が含まれています。火山灰は噴火した年代が分かっているものが多いため、これを手がかりに考えると、約300年～400年周期で内陸部にまで達するような特殊な巨大津波が根室地方を襲っていることが明らかになっています。



北海道開拓記念館、産業技術総合研究所による「はぎ取り」製作の様子
(2005年11月 南部沼)

道東地方の地震と津波

日本は世界でも有数の地震国に数えられています。なかでも北海道東部太平洋沿岸地域は大規模地震とそれに伴う津波の多発地帯であり、多くの人命が奪われ、甚大な被害をもたらしてきました。